
ミックミックファンタジー

走る地軸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミックミックファンタジー

【Nコード】

N7989I

【作者名】

走る地軸

【あらすじ】

オタクで妄想壁のある高校生水田潤斗はある日トラックに轢かれファンタジーの世界へと舞い込む。

そしていきなりモンスターに襲われていた少女を助ける事になる。なんの力も無い少年が何の奇跡か、なんとかモンスターを倒したとき心配そうに覗き込む彼女の顔は・・・何故か彼がこよなく愛する二次元の歌姫初音ミクだった。

出会い。(前書き)

この小説はvocaloidの多分ファンフィクションです。

多分ってのは、原作が物語りじゃないからファンフィクションって言う言葉があってるかどうか、分からないからです。

まあ多分ファンフィクション以外に会う言葉無いからあってると思います。

出会い。

突然だけど、ファンタジーの世界に行きたいと思った事はあるかい？俺はある。

何度もある、常々思ってる。

ぶっちゃけ俺は社会不適合者なんだろう。

部屋は漫画やアニメのDVDやゲーム等で埋まっている。

17歳高校生、妄想壁有り、好きな言葉は非現実。いつまでたっても治らない中二病所持者。邪気眼は無い。

俺、水田潤斗はそう言う人間だ。

俺は高校からの帰り道、いつもの用にファンタジーの世界に思いをはべらせ、自転車をこいでいた。

そして、トラックに撥ねられ……死んだ。

なのに気がついたら……草原に倒れていた。

「マジありあえねえ。」

草原、言葉や文字じゃよく聞くかもしれないけど、今までそんな物見たことなかったそれ。

妄想なんかじゃよく想像してたけど、それとはよく似て異なる、緑の絨毯。

風が吹けば、草が踊るように揺れる目の前の景色。

「ありえねえ。」

もう一度口にした言葉。

俺はトラックに轢かれた、あつ、死んだなーと思ったらここにいた。ここは、天国なのか？

「キヤアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

呆然とそんな事を考えていたら、声が聞こえた、どこまでも限りなく響きわたる様な声。

いや…これは、声ではなく、悲鳴と言うのが正しいのだろう、そう認識した時には俺は悲鳴の聞こえた方角に走り出していた。

コレは…よく、ネット小説とかで読んだ…トリップと呼ばれる現象でよくあるパターンに酷似している。

気がついたら知らない場所にいて、良くわからない事件に巻き込まれる。

そんなパターン。

俺が願って、祈って、夢にまで見たファンタジーの……

俺がたどり着いたそこでは、一匹の獅子のような獣と対峙する、女の子がいた。

俺は歓喜に震える気持ちを抑え獣へ、個々まで駆けて来た勢いを利用して側面から体当たりをかました。

不意を撃たれた獣は上手い具合に突き飛ばされてくれた。

「早く逃げろ！！」

俺は少女の方を見ることなく、声をかける。俺は倒れた獣に視線を向けたまま、少女が離れていくのを感じながら思った……………。

どうしよう。

非現実的な事の連続で麻痺していた頭が急に冷えたように冷静になる。

ぶっちゃけ、俺は一般人。

格闘能力も無ければ武器も無い。

倒れてた場所に自転車も鞆もなかったが、服装は学生服だけ。

ああ…俺のいつもの妄想なら、いきなり力が手に入ったりするんだけどなあ…。

そんな事もなく、無情にも、獣は体制を立て直し、俺に跳びかかってくる。

獣の鋭い爪つきの両腕が、両肩を押さえ、牙を俺の首筋に突き立てようとしてくる。

俺は2度目の死の瞬間なのに……………呆然とこんな妄想けた事を考えていた。

せめて、武器…剣でもあれば、一撃でこんな奴たおしてみせるのに…………と。

「貴方に力を♪」

瞬間どこからか聞いた事ある声が聞こえてくる。

ソレは、声だったけど、歌だった。歌だけと言葉だった。

良くわからないけど、そう感じた、そして、それがさっきの悲鳴の主だった事も理解する。

あの悲鳴よりもっと前にも聞いた事あるような声な気がしたけど・
・気のせいだと思う。

「あれ・・・。」

無様に押し倒されたままの格好で、来ると思った首筋への痛みがない。

その代わり、獣に押し倒された時せめての抵抗と思って前に出ていた両手に熱い液体が滴る感覚がある。

俺の両手には：一本の白銀に輝く剣があり、その剣は勢いよく飛び掛ってきた獣の喉を貫通していた。

「大丈夫ですか？」

覗き込む少女の顔みて驚いた。

そこには、緑の髪をツインテールに心配そうな顔をした少女…。
俺の嫁。

「は、初音・・・ミク？」

俺は緊張が解けたせいかな、そのまま意識を手放した。

出会い。(後書き)

vocaloidのファンフィクション、しかもファンタジー。

また、珍しいものに手をだしたと我ながら思います。

プロットも何も無い、いきあたりばったりなんです、が、まあ、がんばってみます。

感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7989i/>

ミックミックファンタジー

2010年10月10日14時44分発行